

地 学 と 切 手



ヘクラ火山1947年の噴火切手

P. Q.

ヨーロッパの切手屋では アイスランドとスイスの切手は高くなるから買っておくとよいと よくいわれる。 ついつられて買った一組の中に このヘクラ火山1947年噴火の切手があった。

この火山はソラリンソン (S. THORARINSSON) のテフロクロノロジーの研究で有名である。 この火山はアイスランド中央を北東方向に横切っている後氷期火山群のひとつで ほぼN45°E方向に走る約30kmに達するわれ目噴火の火山列のうちの最高峰(1,447m)である。 この付近には Eldgja と Lakagigar という2列のわれ目噴火列と Grakolla および Katla という2つの成層火山があり 共に中央大西洋海嶺の海面上に現われた火山で海嶺中央の地溝状の部分に位置している。

この火山の活動はすでに 先史時代から始っており <sup>14</sup>C法で4030±120年 3830±120年 2820±70年 B. P. などの熔岩や火山灰も知られている。 この火山の活動が初めて文献に記録されているのは サガとよばれる日本の古事記に似た伝承の中に “Gizur 大司教の時代には大事件が多く.....the coming up of fire in Hekla.....” と記されており これは1082年から1118年の間のことである。 この頃北欧は ヴァイキングの全盛時代で 8世紀初めからこの島に住みついたアイルランド人を追い出して 810年頃から住みつき 古代ゲルマンの会議制に

よる一種の民主主義をうち建てヨーロッパで最初の議会を開いて この新しい土地に理想のアイスランド自由国を築こうとしていた。 この議会は 首都レキャビックとヘクラ火山のほぼ中間にあるティングベリール(会議原)と呼ばれる場所で 930年に初めて開かれ 湖の北から流れ込む河の周りの草原に人々はテントを張って島中から集りトルロとオデンの神像の前で憲法をつくり 民主的な裁判を行なった。 この議会は毎年夏に1週間~10日間泊り込みで開かれ 人々の最高の社交場であった。 13世紀中頃この島の独立が失なわれるまで

ここには学芸が栄え 古来の伝承が記録され 古代中世ヨーロッパ文学の宝庫を作った。 これらのサガの記録は ヨーロッパの原動力であったゲルマン民族の神話・歴史・信仰・生活やヴァイキングの活躍を生々とのべそれらがいかにかキリスト教に染めかえられ影をうすくして行ったかが非常によく伝えられている。 その頃ヘクラはまた幾度か火を噴いた。 1104年のあと 1158 1206 1222 1300 1341 1389 1510 1597 1636 1693 1766 1845年と活動があり その後101年目の1947年3月29日朝噴火があり 8×10<sup>8</sup>m<sup>3</sup> の熔岩と 2.1×10<sup>7</sup>m<sup>3</sup> の火山灰を噴出し 活動は13か月にわたって続いた。 これらの活動はソラリンソンの研究で各時期の火山灰が詳しく追跡され 熔岩の SiO<sub>2</sub> 量は休止期の長さにはほぼ比例して多くなっていることも明らかにされた。 アイスランドの火山岩類は 分化過程での珪酸含有量の変化では明らかにソレアイト系列に属し 橄欖石玄武岩はなく 分化物からみると海洋的ではなくて大陸のソレアイトトラップに似ているといわれている。

このようにアイスランドの火山岩が海洋型と大陸型の中間的性質を示すのは この島が古第三紀まではグリーンランドと北部ヨーロッパをつないでいた陸地と 中央大西洋海嶺の交差点にあるという構造的な位置と それに基づく複雑な発展史に関連するものと考えられている。

切手は1948年12月4日に7種1組で発行された。 図案は3種で50 a は12 a と同じである。

第16回人工鉱物討論会

共催 日本鉱物学会 日本化学会・同北海道支部ほか6団体  
日 時 10月2日(土) 3日(日)  
会 場 北海道大学理学部(札幌市北12条西8丁目)  
主 題 1. 鉱物単結晶の育成と合成(単結晶の育成条件  
合成方法ならびに生成結晶の物性)  
2. 固相からの結晶成長(高圧を含む)

注:会期は2日間ですので 昨年どおりたとえば有機結晶に天然鉱物のみに 焼結体に関連あるものなどは それぞれ関連ある結晶学会 鉱物学会 粉末冶金協会 産業基礎討論会 結晶成長国内会議 などへ提出することを望みます  
講演申込締切 7月10日(土)  
ハガキ大の用紙に講演題目 氏名(講演者○印) 所属連絡

先 主題希望番号ならびにB5(400字詰)原稿用紙1枚に内容の概略を記入のうえお申し込み下さい。採用題目については折返し予稿集用指定原稿用紙(3000字 図表および写真を含む)をお送りします。 なお 400字概要のないときは採用しかねますから申し添えます。

要旨原稿締切 8月15日(日)  
参加登録・予稿集予約ならびに親睦会参加締切 8月31日(火)  
討論会への参加は登録制とし 登録費300円 予稿集一部700円 親睦会は10月2日(土)18時から会費1,500円 学生1,000円で行ないます。これらに関する費用は締切期日までに現金書留でお送り下さい。  
申込先 060 札幌市北12条西8丁目 北海道大学工学部応用化学科内 第16回人工鉱物討論会世話人  
松下 徹(電話:(011)711-2111 内2229)